

文 化

1. 施策の方向性

- (1) 未来に継承すべき文化財の保護を図るとともに、本市が管理する文化財の補修・整備を行い、文化財を学習や観光などに活用できる場として提供し、その情報についても各種手法により、広く市民に提供する。
- (2) 発掘した遺跡の公開や発掘成果の積極的公開を進め、学習や体験活動の場として提供する。
- (3) 郷土芸能を後世まで正しく伝承し、地域の絆を保ち、郷土愛を高めるとともに、文化財に対する理解と関心を深める必要がある。
- (4) ふるさと考古歴史館等を活用しながら、本市の歴史・文化に対する市民の理解を深め、文化財愛護思想の高揚を図るとともに、文化財の保護と活用に努める。
- (5) 「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の世界文化遺産登録を目指す。

2. 事業の概要

(1) 文化財の保護と活用

① 指定文化財の保護・管理

市内には国指定文化財23件、県指定52件、市指定86件の計161件の指定文化財と26件の国登録文化財がある。市指定文化財については、昭和47年4月に制定された「鹿児島市文化財保護条例」に基づき保護管理を実施し、文化財指定については、文化財審議会の委員等による学術調査、審議を経て市指定を行っている。

また、「喜入のリュウキュウコウガイ産地」、「異人館」、「旧島津氏玉里邸庭園」など本市が管理する国指定文化財については、補修・整備を行い、文化財の保存と活用を積極的に推進する。

② 埋蔵文化財の保護

各種開発事業に伴う発掘調査を実施するとともに、発掘した遺跡の公開や発掘成果の積極的公開を進める。

③ 文化財の活用

地域で育まれてきた文化財の調査の結果を整理し、「史跡めぐりガイドブック」、「鹿児島市遺跡分布図」、「デジタルミュージアム」等の各種手法により広く市民に情報を提供し、生涯学習や学校教育の場で活用できるように努める。

④ 郷土芸能の保護

現在保存されている郷土芸能が正しく伝承されるよう、使用する道具や衣装の補修に要する費用を補助するとともに、郷土芸能団体の運営経費補助を行う。

⑤ ふるさと考古歴史館の活用

ふるさと考古歴史館について、資料収集等の充実と活用に努めるとともに、企画展の開催や体験学習等を実施する。

⑥ 近代化産業遺産の保存・活用

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の構成資産の保存・活用に努め、関係自治体等と連携・協力を図りながら世界文化遺産登録を目指した取組を進める。

ふるさと考古歴史館

ふるさと考古歴史館は、先人の残した文化遺産の調査、研究及び展示を通して、本市の歴史に対する市民の理解を深めるとともに、個性豊かな市民文化の創造に資するための施設として運営されている。

1. 施設の概要

- (1) 開館 平成9年4月17日
- (2) 所在地 下福元町3763番地1（慈眼寺公園内）
- (3) 延床面積 3,194.56㎡
- (4) 建物構造 鉄筋コンクリート造2階建
- (5) 施設 1階 常設展示室 事務室 復元整理作業室 収蔵庫
2階 導入展示室 企画展示室 図書室 会議・視聴覚室
体験学習室

2. 利用の案内

- (1) 開館時間 午前9時から午後5時まで
- (2) 休館日 月曜日（休日のときは翌日）
12月29日から1月1日まで
- (3) 観覧料

区 分	個 人	団体（20人以上）
一般（高校生以上）	300 円	240円
小・中 学 生	150 円	120円
年間観覧券 一般	600 円	-
年間観覧券 小・中学生	300 円	-

- 小学校に就学するまでの方は、無料です。
- 特別企画展観覧料は、その都度定めます。

3. 特 色

(1) 常設展示

鹿児島市の人々の暮らしの歴史と町の発展の歴史を、埋蔵文化財を通じて紹介し、単に出土品を陳列するだけでなく、市民に分かりやすく親しみが持てるよう最新の各種映像・音響機器やソフトを駆使し、市民参加体験型の展示を行う。

鹿児島を発掘する（導入展示）

考古ギャラリー 鹿児島の地層

埋蔵文化財の魅力と発掘調査風景を紹介し、埋蔵文化財の世界へ誘う。

また、考古の基本となる鹿児島の地層を紹介するとともに鹿児島の地形、地質、気候等の変化を紹介する。

原始・古代人の知恵

縄文の夜明け－掃除山の人々 旧石器時代▷縄文時代

タッチ・ミー タイムスリップ縄文人！ 草野貝塚と集落

土器クイズ 弥生時代▷古代 誇りと勇気－熊襲・隼人

国内最古の集落のひとつである掃除山遺跡を国内最大級の大型模型で復元し当時の人々の暮らしを紹介する。

また、草野貝塚からの大量の出土品を中心に、食料の確保から調理、装身具の使用例などを紹介するとともに、縄文時代の人々の暮らしをマルチ映像により再現する。

各時代の遺跡からの出土品を紹介し、あわせて、土器、石器等の道具の製作、使用方法等を各種映像機器により紹介する。

先人達の努力

中世▷近世 鹿児島城下町めぐり 絵図検索 地名検索

中世の山城、城と城下町の変遷を模型や映像により紹介するとともに、陶磁器製品等の出土品により人々の生活を紹介します。

また、「天保年間鹿児島城下絵図」を背景に当時の人々の暮らしや当時の町並みの状況、町名の由来などを紹介する。

さあ出発！（導出展示）

ビデオライブラリー 鹿児島市内の主な史跡 考古博士

市内の遺跡の状況、概要を紹介する。

展示用ガイドシートの答え合わせを行い、「考古博士」の認定証を授与する。

屋外体験ゾーン

縄文・弥生時代復元住居 高床式建物復元 復元集石

原始・古代の住居等を実物大に復元するとともに、古代服の着用体験を行う。

(2) 企画展

「上町地区からのメッセージ～鹿児島市内遺跡の発掘調査速報展～」

平成26年4月1日（火）～6月15日（日）

平成24年度に行った発掘調査のうち、上町地区における成果を中心に展示し、市民の皆様に鹿児島市内の身近な遺跡や文化財に親しみを持っていただくことを目的とする。

「ふるさとアーカイブズ～未来に伝えたいかごしまの記憶～」

平成26年7月1日（火）～8月31日（日）

昭和期後半から平成になるまで鹿児島県で開催されてきたイベントなどを、関連する資料や写真を通じて紹介する。

鹿児島市制125周年 新生鹿児島市10周年記念特別企画展「薩摩麓御仮屋紀行－兵児の時代－」

平成26年9月20日（土）～11月30日（日）

鹿児島県及び宮崎県の一部にあったお仮屋のなかで地域的な特徴を有していたものを中心に紹介し、鹿児島藩独特の支配制度である外城制について考察を行う。

「古代のデザイン」（仮称）

平成26年12月13日（土）～平成27年2月15日（日）

土器や装飾品のデザインに焦点を当て展示するとともに、それらをもとにデザインした古代服のリニューアルを行う。

「谷山地区からのメッセージ～鹿児島市内遺跡の発掘調査速報展～」

平成27年3月3日（火）～3月31日（火）

平成25年度に鹿児島市内で発掘調査された遺跡の中でも、谷山地域の調査成果を中心に取り上げ、これまであまり展示機会のなかった遺跡も加えて展示を行う。

(3) 図書室

考古、歴史に関する専門書、児童図書、郷土関係図書などの蔵書を備えている。

(4) 会議・視聴覚室

考古、歴史に関するビデオ上映や講演会などを行う。

(5) 体験学習室

古代の生活の一部を体験してもらうため「勾玉づくり」、「土器づくり」、「土笛・土鈴づくり」などの体験学習を行う。

4. 利用者実績

（単位：人）

年 度		H21	H22	H23	H24	H25
常 設 展 示 観 覧 者	有 料	11,814	9,614	7,103	10,242	6,460
	無 料	11,157	10,886	9,866	12,371	9,172
	計	22,971	20,500	16,969	22,613	15,632
そ の 他 入 館 者		69,256	65,658	62,864	69,846	60,201
合 計		92,227	86,158	79,833	92,459	75,833

旧鹿児島紡績所技師館(異人館)

1. 沿革

旧鹿児島紡績所技師館は、鹿児島藩が建設した鹿児島紡績所（日本最初の洋式紡績工場）に招かれたイギリス人技師7名の宿舎として慶応3（1867）年に建設された木造2階建ての洋館で、「異人館」と呼ばれている。

わが国における初期洋風建築の代表的な建物で現存する数少ないものの一つとして、建物は国指定重要文化財、また、敷地の一部は国指定史跡となっている貴重な文化財である。

耐震補強工事を経て、平成23年10月に、イギリス人技師が暮らしていた当時の室内を家具の配置等により再現し、本市が取り組んでいる世界文化遺産登録への取組などを紹介した解説パネルを設置するなどしてリニューアルオープンした。

2. 施設の概要

- (1) 所在地 吉野町9685番地15
- (2) 開館時間 午前8時30分～午後5時30分
- (3) 休館日 年中無休
- (4) 入館料

区 分	個 人	団 体 (20人以上)
一 般	200円	160円
小・中学生	100円	80円

旧島津氏玉里邸庭園

1. 沿革

島津家第27代当主島津斉興が天保6（1835）年に築庭した南九州を代表する大名庭園。当初は現在の鹿児島女子高等学校グラウンドに別邸「玉里邸」もあったが戦禍で焼失し、茶室と黒門、長屋門を残すのみとなった。書院座敷から眺める「上御庭」と回遊式の「下御庭」の2つの庭園から成り、平成19年7月に国の名勝に指定された。

平成20年度から、庭園の本来の魅力を取り戻すように整備を行っており、現在「下御庭」のみ一般公開を行っている。

2. 施設の概要

- (1) 所在地 鹿児島市玉里町27番20号
- (2) 開園時間 午前9時～午後5時
- (3) 休園日 毎週火曜日（火曜日が休日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月1日）
- (4) 入園料 無料
- (5) 茶室使用料 半日使用（午前9時～午後1時、午後1時～午後5時）2,400円
一日使用（午前9時～午後5時）4,800円

西郷南洲顕彰館

1. 現 況

(1) 設置の経緯

西郷南洲顕彰館は、西郷隆盛（南洲翁）を中心とする明治維新の先覚者たちの、国家・社会に尽くされた偉業を後世に伝えるとともに、新しい時代を担う青少年の人間形成に役立てるため、西郷南洲翁を慕う全国の方々からの寄付により建設された施設で、昭和53年6月に鹿児島市に寄贈され、開館したものである。施設の利便性向上のため、平成22年4月にリニューアルオープンした。

(2) 所在地

鹿児島市上竜尾町2-1（南洲公園内） TEL247-1100・FAX247-3373

(3) 施設の概要

① 本 館

- ・開 所 昭和53年7月1日
- ・延床面積 550.83㎡
- ・構造規模 鉄筋コンクリート造2階建（一部地階）

② 別館展示学習室

- ・開 所 平成13年4月1日
- ・延床面積 230㎡
- ・構造規模 鉄筋コンクリート造平屋

2. 利用の案内

(1) 開館時間 午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）

(2) 休 館 日 月曜日（祝日の場合はその後の最初の平日）、12月29日から1月1日まで

(3) 入 館 料

公園名	名 称	入 館 料	摘 要
南洲公園	西郷南洲顕彰館	一 般 200円 小・中学生 100円	団体20人以上2割引

※ 未就学児は無料です。

3. 主な展示物

- | | |
|--|---|
| (1) 西郷隆盛の生涯（ジオラマ） | (4) 西郷隆盛の衣服、遺品、肖像画 |
| (2) 島津28代藩主斉彬公の功績 | (5) 西郷隆盛の墨跡 |
| (3) 映像ライブラリー「西郷隆盛の一生」
「西南戦争」「徳の交流」他 | (6) 西南戦争関係資料、銃弾、旗、写真等
(7) 西郷南洲遺訓集などの関係図書 |

4. 入館者数

（単位：人）

年度	大 人	小 人	小 計	大人無料	小人無料	小 計	合 計
20	21,368	1,803	23,171	3,389	2,348	5,737	28,908
21	2,083	104	2,187	6,115	2,257	8,372	10,559
22	10,598	1,284	11,882	3,195	1,281	4,476	16,358
23	11,123	841	11,964	2,780	2,578	5,358	17,322
24	9,830	840	10,670	2,817	2,060	4,877	15,547
25	8,634	764	9,398	2,442	1,873	4,315	13,713

※ リニューアルに伴う工事のため、平成21年7月～平成22年4月は別館で、無料展示を行った。

美 術 館

1. 沿 革

美術館の敷地は、薩摩藩主島津氏の居城であった鶴丸城二の丸跡の一部である。明治年間から昭和の初期にかけて、ここに市役所があったが、昭和12年に移転し、そのあとに藤武喜左衛門氏の遺族の寄付を基金として、昭和14年7月20日、歴史館が完成した。

しかし、第二次世界大戦の終わりも間近い昭和20年6月17日夜の空襲により外かくを残して炎上した。幸いなことに館藏品は疎開してあったため、大半は難をまぬがれた。

戦後、歴史館の復旧にあたって、美術館建設の世論が高まり、美術家を中心とする美術館建設期成同盟会の尽力と当時の市長、勝目清氏と市議会の英断により、美術館建設が決定され、昭和29年9月1日に開館した。

昭和32年6月には岩崎与八郎氏の寄付により別館が建設され、郷土の美術、工芸作品の収集展示、特別展その他の展覧会、美術教室等の開催、美術団体等に対する展示場の貸与などの各種事業を通じて美術文化の振興に寄与し、ユニークな地方美術館として全国的にも知られていた。

しかし、近代美術館としての活動を拡充しようとするとき、施設設備その他の面で不十分であった。このような状況を改善するため、昭和53年の美術館建設調査会の答申の趣旨を基調に、南九州の美術文化発展の一拠点として機能する美術館を建設することとして建設計画を進めた結果、旧美術館を解体した跡地に新美術館を建設することに決定して、昭和58年10月に工事着工、昭和60年3月30日竣工し、昭和60年10月29日開館した。

2. 施設の概要

- (1) 開 館 昭和29年9月1日（昭和60年10月29日新美術館開館）
- (2) 所 在 地 城山町4番36号（TEL224-3400）
- (3) 開館時間 午前9時30分から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
- (4) 休 館 日 月曜日（祝日のときはその翌平日）
12月29日から翌年1月1日まで

(5) 建設規模

- ① 敷地面積 6,842.83㎡
- ② 建築面積 2,590.23㎡
- ③ 延床面積 5,469.49㎡
- ④ 構 造 鉄筋コンクリート造
- ⑤ 規 模 地下1階，地上3階
- ⑥ 総 工 費 約23億円

(6) 主な施設

〔地下〕講堂，市民アトリエ(1×2)，展示ロビー，機械部門

〔1階〕エントランスホール，一般展示室(1×2)，収蔵庫(1)，アートルाइブラリー，研究調査部門，事務管理部門，搬出入部門

〔2階〕常設展示室(1×2×3)，企画展示室，収蔵庫(2×3×4)，喫茶コーナー

〔3階〕機械部門

① 部門別面積表

部 門	面 積	構 成 比	備 考
展 示 部 門	1,740.80㎡	31.83%	常設展示室，企画展示室，一般展示室，展示ギャラリー，展示ロビー
所 蔵 部 門	707.89	12.94	収蔵庫，修理工作室，燻蒸室，写場
搬 出 入 部 門	254.74	4.66	搬出入車庫，搬出入室，作品仮置場，梱包倉庫
研究調査部門	116.08	2.12	学芸員室，書庫資料室，研究調査室
教育普及部門	434.74	7.95	講堂，市民アトリエ，アートルाइブラリー
事務管理部門	253.57	4.64	館長室，応接室，事務室，会議室，警備員室，印刷室
共 用 部 門	1,166.99	21.33	エントランスホール，喫茶コーナー，休憩コーナー，エレベーター，廊下，階段
電気機械部門	794.68	14.53	
計	5,469.49	100.00	

② 展示室面積・壁面長さ

展示室名	面積	壁面の長さ			
		固定	可動	計	
常設	483.81㎡	80.4m	30.0m	110.4m	
企画	229.83	45.0	26.0	71.0	
貸展示室	一般 1	289.51	57.8	36.0	93.8
	一般 2	372.31	81.5	41.0	122.5
	展示ロビー	128.10	23.4	22.9	46.3
	講堂	129.71	0	18.8	18.8
	計	919.63	162.7	128.7	291.4
合計	1,633.27	288.1	184.7	472.8	

3. 基本方針

美術品の収集保存、常設展、企画展の実施、教育普及活動の充実等、美術館活動の積極的な推進を図り、市民の美術に対する関心と理解を深め、開かれた美術館の運営に努める。

- (1) 常設展、企画展の内容の充実を図り、すぐれた美術品の紹介に努める。
- (2) 収蔵美術品の充実・保存に努め、美術館としての機能を高める。
- (3) 学術的な調査研究を深め、美術館活動の内容の充実に努める。
- (4) アートライブラリーの整備、美術教室の開催、美術講演会の開催等、教育普及活動の充実に努める。
- (5) 美術団体等が開催するすぐれた美術展覧会の誘致を図る。

4. 事業の概要

(1) 常設展

小企画展と連動し、季節ごとにテーマを設けて特集展示を行い、できるだけ多くの収蔵品の展示に努めている。

① 郷土美術

黒田清輝、藤島武二、和田英作などの日本近代洋画、木村探元などの日本画、新納忠之介、安藤照などの彫刻、薩摩焼や薩摩切子の伝統工芸と宮之原謙などの近代工芸のほか、桜島が描かれた作品も展示している。

② 西洋美術

モネ、ピサロなどの印象派からセザンヌ、マチス、ピカソ、ダリ、カンディンスキー、デュビュッフエ、ステラ、ウォーホルへと続く西洋絵画とロダン、アーキベンコ、マリーニなどの彫刻を展示している。

(2) 特別企画展

① 鹿児島市制125周年・新生鹿児島市10周年記念 西洋近代絵画と松方コレクション

平成26年7月18日～8月31日

19世紀から20世紀にかけての西洋絵画は、めまぐるしく変化する社会に呼応して次々と新しい傾向が生まれた。この展覧会では、国内で所蔵されているクールベやドガ、モネ、ルノアール、ムンク、ルドン、ピカソ、マグリットなどの作品と当館のコレクションを通じて、西洋近代絵画の流れをたどる。また、鹿児島出身の実業家松方幸次郎の業績とそのコレクションも紹介する。

② 生誕110年 海老原喜之助展

平成26年10月2日～11月9日

鹿児島市出身の洋画家海老原喜之助は、若くしてパリで学び「エビハラブルー」と称される雪景シリーズで注目された。帰国後は庶民の生活を詩情あふれる画風で描き独立展などで活躍した。戦後は画風を大きく変え、社会や時代と向き合ったモニュメンタルな作品を描いた。代表的な油彩画はもちろん、近年発見された膨大なデッサン等から、その芸術の今日的な意義を探る回顧展。

(3) 小企画展

① 没後60年 新納忠之介の功績—神仏像の修復に捧げた生涯— 平成26年4月1日～5月11日

没後60年を迎える鹿児島出身の彫刻家新納忠之介の修復師としての仕事に焦点を当て、神仏像の型取り石膏や模刻、新たに制作した仏像などから、国宝修復に生涯を捧げた新納の功績を振り返る。

② 山を愛でる 平成26年5月27日～7月13日

山は古くから画題として好まれてきた。理想化された山水画の山や名所絵に描かれた山のほか、近代以降の作家がそれぞれの山容表現に挑戦した山の絵を紹介する、山づくしの展覧会。

③ 視覚の冒険—アルバースとヴァザルリの版画— 平成26年9月4日～9月28日

緻密に計算された構図と色彩によって、目の錯覚を利用した抽象画を描いた2人の作家、ジョセフ・アルバース（1888～1976）とヴィクトル・ヴァザルリ（1908～1997）の版画をご紹介します。

④ 師弟の系譜 平成26年11月13日～12月21日

先人への憧れから描き始めた画家が、また次世代に影響を与えていく。本展ではそんな師弟の系譜を、木村探元、黒田清輝、藤島武二などの例を通してたどり、作風の影響関係にご注目いただく。

⑤ 黒門会の作家たち 平成26年12月23日～平成27年2月8日

黒い歌舞伎門の邸宅に住んでいた洋画家有島生馬と、東郷青児や海老原喜之助、荒谷直之介ほか、その門をくぐり会派を超えて集まった「黒門会」の画家たちの作品と交流の軌跡を紹介する。

⑥ ゼロ年代の絵画 平成27年2月10日～3月29日

当館所蔵の2000年代の作品10点を一堂に集め、現代絵画の動向を探る。それぞれの作品の意図や現代に描くことの意義を、作者とのメールによって語り合い、その対話の内容も紹介する。

(4) 館外展<蔵出し美術館>

迫真の細密画—安達真太郎と伊牟田経正— 平成26年12月5日～12月15日

鹿児島ゆかりの細密画家から、第一人者の安達真太郎と、独特な空間を表現した伊牟田経正を紹介する。

(5) 市民作品公募展

市民アートフェアかごしま'14 平成26年10月26日（日）【予定】

市民の創作した美術作品を、ジャンルを問わず幅広く公募し、無審査で美術館前庭に展示する。人気投票による表彰などのイベントも行う。

(6) 共催展

①第61回県美展 平成26年5月17日～5月25日

②第65回高美展 平成26年12月12日～12月21日

(7) その他の主な展覧会

歌川国芳展、南日本写真展、南日本ジュニア美術展、南日本美術展、市小・中学校図画工作・美術学習発表展など

(8) 年度別観覧者状況

(単位：人)

年度	美術館主催		貸 館			蔵出し美術館	合計
	有 料 展		無 料 展				
	常設展	企画展	その他	一般展示室	地下展示室		
15	42,069	31,416	29,975	19,514	28,650		151,624
16	39,748	28,567	33,851	23,629	26,522		152,317
17	41,876	32,099	22,964	21,989	27,697		146,625
18	35,964	29,675	27,053	28,760	27,673		149,125
19	39,908	33,581	29,828	25,323	25,050		153,690
20	38,962	24,342	24,415	40,242	30,041	3,132	161,134
21	43,004	35,044	23,461	41,169	27,440	2,387	172,505
22	66,686	61,358	13,634	35,501	25,955	3,319	206,453
23	48,031	44,145	35,325	25,949	29,244	1,970	184,664
24	31,677	23,677	34,817	30,678	25,541	2,530	148,920
25	39,554	34,942	32,788	17,576	30,988	2,445	158,293

(9) 美術講座・講演会

美術講座

期 日	内 容	講 師	募集人数
5月5日	美術館こども探検	渡邊眞一郎館長及び学芸員	10人 (小4～小6)
6月29日	日曜美術講座 「切り絵入門講座」	切り絵作家 篠崎眞康 氏	20人(中学生 ～一般)
7月27日	夏休みワークショップ 「1日のできる夏休みジオラマ教室」	プラモデル作家 岩重賢司 氏	20人(小学生 以上、小3以 下は保護者同 伴)
8月17日	西洋近代絵画と松方コレクション展 記 念ワークショップ 「折り紙建築でつくる松方の夢見た美術館」	鹿児島大学准教授・建築家 柴田晃宏 氏	30人(中学生 ～一般)
9月28日	日曜美術講座「木工入門」	木工作家 風間信秀 氏	20人
10月19日	生誕110年 海老原喜之助展 記念ワー クショップ 「なりきり海老原！素描修業。」	万世中学校教諭・美術協会会員・ 鹿児島独立美術協会所属 吉村英彦 氏	20人
11月30日	日曜美術講座 「紙版画でつくる手作りの年賀状」	版画家 中原みお	20人
1月25日	日曜美術講座 「塑造入門」	武岡台養護学校教諭・彫刻家 美坂康太郎 氏	未定
3月1日	日曜美術講座 「銅版画入門」	銅版画家 鶴留一文 氏	未定

美術講演会

期 日	内 容	講 師
8月3日	西洋近代絵画と松方コレクション展 記念講演会 「松方コレクションの100年」	美術史家 湊 典子 氏
10月26日	生誕110年 海老原喜之助展 記念講演会 「海老原喜之助－戦後のリアリテ」	岩手県立美術館館長 原 田 光 氏
12月7日	地元講師講演会 「(未定)」	未定

学芸講座

期 日	内 容	担 当 学 芸 員
8月24日	「世界3大美術コレクション～シチューキン、 バーンズそして松方～」	谷 口 雄 三
11月2日	「デッサンから探る海老原喜之助－創造の秘密」	山 西 健 夫
12月14日	未定	田 村 桂 子
2月5日	未定	松 下 幸 男
3月8日	未定	稲 葉 麻 里 子

ギャラリートーク

毎週土曜日 14時～	所蔵品展示作品の解説	美術館学芸員
------------	------------	--------

(10) 美術品収集保存・調査研究

絵画・彫刻・工芸等の各分野における代表的郷土作家の作品およびその系譜に関係あるもの、または鹿児島市の美術文化の振興に寄与する西洋近現代美術の作品を収集するとともに、学術的な調査研究、収蔵品の整理、点検、修復に努めている。

(11) その他

① 美術館協議会

美術館の運営に関して、館長の諮問に応える。平成17年度から市民公募による委員2名を加える。
昭和60年4月1日設置 委員10人

② 美術品選定委員会

館長の諮問に応じて、収集しようとする美術品の選定について審議する。
昭和59年4月1日設置 委員5人 構成 学識経験者

③ 美術館友の会

美術鑑賞、研究、制作、活動などにより教養を高め、美術文化の向上を図り美術館活動を援助する。
昭和37年4月1日設置 会員170人（平成26年5月末現在）

5. 観覧料・使用料

(1) 観覧料

区 分	観覧料			
	個 人	20人以上の団体	年間観覧券	
常 設 展	一 般	300円	1人につき240円	1人1年間につき600円
	大学生 高校生	200	〃 160	〃 400
	中学生 小学生	150	〃 120	〃 300
特別展	1人につき、2,000円以内で教育委員会が定める額			

(2) 展示室使用料

区 分	1日あたりの使用料	
	使用者が入場料金を徴収しない場合	使用者が入場料金を徴収する場合
一般展示室(1)	6,000円	7,800円
一般展示室(2)	7,700	10,000
講堂を展示室として使用する場合	2,000	2,600
展示ロビー	2,000	2,600

(3) 講堂・市民アトリエ使用料

区 分	午前9時30分 から午後1時まで	午後1時から 午後6時まで	午前9時30分 から午後6時まで
講 堂	1,500円	2,000円	3,500円
市民アトリエ (1)	1,400	1,600	3,000
市民アトリエ (2)	700	800	1,500

6. 収 蔵 品

(1) 内 訳 (平成26年3月末現在)

分 類	収 蔵 品				
	日 本	外 国	合 計		
美 術 品	日 本 画	119	0	119	
	油 彩 画	354	28	382	
	水 彩・素 描	2,515	5	2,520	
	版 画	293	581	874	
	彫 刻	39	10	49	
	空 間 造 形	1	0	1	
	工 芸	陶 芸	227	10	237
		木 金 工	16	0	16
		ガ ラ ス	26	0	26
		そ の 他	4	0	4
	小 計	273	10	283	
	書 籍	27	0	27	
	書	51	0	51	
	合 計	3,672	634	4,306	
資 料	1,767	8	1,775		
総 計	5,439	642	6,081		

(2) 平成25年度美術品収集状況

種 別	作 者 名	作 品 名
日本画	中 島 信 徴	松に鶴図
〃	花 房 芳 洲	百合
油彩画	青 山 義 雄	桜鳥
〃	海老原 喜之助	晴れ着
〃	黒 田 清 輝	大磯鳴立庵
〃	橋 口 五 葉	枯れ木のある風景 他14点
〃	橋 口 康 雄	鳥の挿絵のあるカード 他20点
水彩・素描	橋 口 五 葉	玉蟬花 他761点
〃	橋 口 康 雄	ノーウッド・パーク 他57点
版 画	橋 口 五 葉	化粧の女 他96点
〃	橋 口 康 雄	中国の仮面 他27点
工 芸	橋 口 五 葉	帛紗花二十三種 他2点
書 籍	橋 口 五 葉 (装幀)	『I AM A CAT』 (夏目漱石著) 他26点
資 料	大 月 源 二	仁王図
〃	小 磯 良 平	「鳥獣戯画」模写 他6点
〃	チャールズ・バートレット	京都寺院前
〃	橋 口 五 葉	古画目録 他372点
〃	平 福 百 穂	橋口五葉像
〃		橋口五葉関連資料964点

科学館

市制100周年記念事業の一環として、図書館との複合施設として開館した。

鹿児島を代表する火山、ロケットなどを科学のテーマとして取り上げ、自然界の法則や科学技術及び宇宙を分かりやすく紹介し、新鮮で感動的な出会いをとおして、科学に対する青少年の夢や創造性を育み、併せて科学知識の普及向上を図っている。

平成24年度には、展示物を参加体験型のものに更新し、子どもから大人まで科学の不思議を楽しめる施設としてリニューアルオープンした。

1. 施設の概要

- (1) 開館 平成2年12月17日
- (2) 所在地 鴨池二丁目31番18号
- (3) 延床面積 5,981.34㎡
- (4) 構造規模 鉄骨鉄筋コンクリート造、地上6階建
- (5) 館内案内
 - 〔1階〕 管理事務室、中央監視室
 - 〔2階〕 科学館入口、エントランスゾーン、ロビー
 - 〔3階〕 展示ゾーン（地球の科学）、科学実験室、科学工作室、多目的ルーム、企画展示室
 - 〔4階〕 展示ゾーン（宇宙の科学・サイエンスラボ）、科学劇場、だれでも工房
 - 〔5・6階〕 宇宙劇場

2. 利用の案内

- (1) 開館時間 午前9時30分から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
- (2) 休館日 火曜日（祝日、1月2日・3日の場合はその後の平日）
12月29日から1月1日まで

(3) 料金

〈入館料〉

区分	個人	団体 (20人以上)	回数券 (11回分)
大人(高校生以上)	400円	320円	4,000円
小人(小・中学生)	150円	120円	1,500円

〈年間パスポート料金〉

区分 券種類	大人 (高校生以上)	小人 (小・中学生)
年間入館券	800円	300円
年間観覧券	1,000円	400円

〈宇宙劇場観覧料〉

① 一般投影

区分	個人	団体 (20人以上)
大人(高校生以上)	500円	400円
小人(小・中学生)	200円	160円

② 特別投影等 一人につき1,000円以内で教育委員会が定める額

③ 特別展示 一人につき1,000円以内で教育委員会が定める額

※未就学児は無料。ただし、宇宙劇場で座席を占有する場合、観覧料は有料（小人料金）

(4) 宇宙劇場上映時刻

第1回 10:10（プラネタリウム） 第2回 11:10（ドームシネマ）
第3回 13:10（ ） 第4回 14:10（ ）
第5回 15:10（ ） 第6回 16:10（ ）

※ 第6回は、日曜・祝日・土曜日のみ上映

定員 286人 上映時間 約40～50分

3. 特 色

(1) 科学展示（常設展示物71点）

「地球から宇宙へ」をメインテーマとして展示を構成し、自分で操作し、体験することのできる展示物を数多く設置して、新鮮で感動的な科学との出会いの場を提供する。

① 「地球の科学」ゾーン

桜島を代表とする鹿児島島の自然等を題材に、地球の構造や活動、鹿児島島の魅力を学べるゾーン。
（桜島ウォークスルー）（桜島スカイウォーク）

② 「宇宙の科学」ゾーン

太陽を中心として、惑星を立体的に展示するとともに、最新の宇宙科学・技術情報を紹介するゾーン。
（さわれる太陽）（スイングバイテーブル）

③ 「サイエンスラボ」ゾーン

新たに設置する「科学劇場」や「だれでも工房」の周辺に、様々な分野の参加体験型の展示物を集め、子どもから大人まで科学の不思議を楽しく体感できるゾーン。

（科学劇場）（だれでも工房）

(2) 宇宙劇場

プラネタリウムと大型全天周映画（ドームシネマ）の上映を行う。プラネタリウムは、星空の生解説や学習投影、四季毎にテーマを変えて投影する一般投影のほか、子ども向け番組の投影も行う。

19年度に導入した光学式プラネタリウム投影機は約1,000万個の星を投影可能となり、より自然で美しい星空となった。また、全天デジタル映像システムにより、CG映像が投影可能となり、これまでのスライド投影では実現できなかった立体感や臨場感を体験出来るようになった。感動的な映像を体験できるドームシネマは、科学に関連した内容の番組を上映する。

〔規模〕ドーム径 23m 座席数 286席 傾斜角 30度

(3) 夏の科学教室

科学に触れ合い、科学する心を養うため、夏休みに、実験、工作、パソコンの操作や天体望遠鏡作りなどの科学教室を実施する。

(4) 出前教室

市内外の教育機関や企業等の要請に応じて、館外へ出かけ、実験ショーや天体観望会を実施する。

(5) 特別教室

学校行事や親子活動等、団体入館者の要望により、実験・工作等を実施する。

(6) サタデーワークショップ

科学実験・工作を週替わりで体験できるワークショップを毎週土曜に実施する。

(7) 科学劇場

幼児から大人まで楽しめる体験型の実験ショーを毎日実施する。

(8) だれでも工房

入館者を対象に、短い時間で誰もが簡単に挑戦できる科学ものづくりを毎日実施する。

(9) その他のイベント

〔主催〕

① こいのぼりをかざろう 4/17～5/8

こどもの日に向けて、園児の協力をお願い、2階エントランスに鯉のぼりをあげて、雰囲気づくりを行う。

② こどもまつり 5/5

中学生以下の子どもたちに対して、入館料を無料とし、ゲーム行う。

③ プラネタリウム「星と音楽の夕べ」 5/17・8/2・11/8・2/21

プラネタリウムでの星空散歩と著名な歌手のCD音楽を楽しんでもらう。好天の場合は屋外での星空観望会も実施する。

④ 七夕かざり 6/5～7/9

七夕にちなみ、願い事を書いた短冊やかざりを園児の協力をお願い、かざり付けを行う。

⑤ 夏休み特別企画展

- 「わくわくからだ大冒険」8/1～8/31
 巨大なエアオブジェを設置し、クイズやグラフィックで楽しく食べ物の消化の仕組みを学んでもらう。
- ⑥ 「青少年のための科学の祭典 鹿児島2014」 7/26・7/27
 県下の理系学校の教育関係者等を講師とする実験・工作ブースを38程度設置し、来場者に科学の不思議や楽しさを体験してもらう。
- ⑦ さよなら夏休み 空気砲まつり 8/29～8/31
 夏休み最後の行事として、空気砲ゲームを行う。
- ⑧ 皆既月食を楽しもう 10/8
- ⑨ 爆笑！星のお兄さんプラネタリウムショー 11/16
 「笑い」を取り入れた星空解説で話題を集める「星のお兄さん」こと田端英樹氏のプラネタリウムショーを行う。
- ⑩ お年玉大さくせん 1/2～1/6
 宇宙劇場の番組や科学に関連するグッズを抽選でお年玉としてプレゼントする。
- ⑪ 冬季限定 スライム仮面を探せ！ 1月～3月
 スライム仮面が出没する時間をツイッター等で紹介し、スライム仮面と一緒にスライムを作る。
- ⑫ サイエンストーク 年4回
 教育・研究機関関係者や大学講師が科学や天文について語り合う。
- ⑬ 「ナンデモ カガク」オンステージ 年4回
 小・中学校の教職員、大学講師による実験ショーを行うとともに、大学の奇術同好会によるマジックショーや、その科学的な解説を行う。
- ⑭ セグウェイ体験試乗 毎月第一土曜日
 電動立ち乗り2輪車セグウェイの試乗体験を実施する。

〔共催〕

- ① キッズプラネタリウム～おはなしと音楽の夕べ 6/21・6/28
 子ども連れの家族を対象に、プラネタリウムでの子ども向けの星空紹介と、おはなし会&生演奏を実施する。(市立図書館、鹿児島市民文化ホールとの共催)
- ② 鹿県電波適正利用推進員協議会開催の教室 6/29
 協議員の指導による、AMラジオ制作教室を実施する。(鹿県電波適正利用推進員協議会との共催)
- ③ 大人のための朗読会 in プラネタリウム 7/4・2/13
 アナウンサーによる「七夕」や「バレンタインデー」をテーマにした朗読会や科学館職員による星空案を行う。
- ④ 「ワクワク・どきどき楽しい親子科学教室」7/31・8/6・8/7・8/8
 各公民館において募集した親子を対象に実験教室を行う。(城西・武田上・吉野・郡山公民館との共催)
- ⑤ でんちフェスタ in 鹿児島 8/2
 手作り乾電池教室やクイズを通して電池について学んでもらう。(電池工業会との共催)
- ⑥ 鹿児島高専の日2014 8/10
 鹿児島高専の各学科による実験工作やロボットの展示などを行う。(鹿児島工業高等専門学校との共催)
- ⑦ 「宮沢賢治の世界」 in プラネタリウム 8/16
 かがしま近代文学館の特別企画展に関連し、宮沢賢治作品の朗読や楽器の演奏を行うとともに、プラネタリウム番組「銀河鉄道の夜」を上映する。(かがしま近代文学館との共催)
- ⑧ はやぶさフェスティバル2014 8/23
 はやぶさシミュレータの設置に伴い、はやぶさをテーマにした講演会や企画展を行う。
- ⑨ コズミックカレッジ ファンダメンタルコース・キッズコース 8/23・8/24
 小・中学生を対象にJAXA認定の宇宙教育リーダーによる宇宙に関する実験・工作を行う。(文部科学省後援・JAXAとの共催)
- ⑩ 考古館寺子屋 8月
 ふるさと考古歴史館にて、夏の星座紹介と望遠鏡による惑星などの観察を行う。(ふるさと考古歴史館

との共催)

- ⑪ 宇宙の日文・絵画コンテスト 募集：5月～7月 表彰 9/13
宇宙をテーマに作文や絵画を募集し、審査・表彰を行う。(文部科学省, 国立天文台, JAXAとの共催)
- ⑫ 科学技術映像祭入選作品発表会 10/1～10/13
第55回科学技術映像祭の入選作品を館内で放映する。(JST (科学技術振興機構), つくば万博記念財団との共催)
- ⑬ リラクゼーション in プラネタリウム 10/17
一般勤労者を対象として, 星空紹介と医師等による講演を行う。(鹿児島市保健所との共催)
- ⑭ 親子鴨池冒険隊 10/25
小・中学生とその保護者が鴨池地域の施設めぐり等を行う。(鴨池公民館との共催)
- ⑮ 鹿児島県高等学校理科研究発表大会 10/31
高校生が日頃の理科研究の成果を発表する。(鹿児島県高等学校教育研究会理科部会との共催)
- ⑯ 鹿児島高専のロボットがやってくる! 1/24・1/25
全国高等学校ロボットコンテストに出場した鹿児島高専のロボットの実演ショーを行う。(鹿児島工業高等専門学校)
- ⑰ 「科学する心」を見つけよう写真展
ソニー教育財団「科学する心」を見つけようフォトコンテスト入賞作品を展示する。(ソニー教育財団との共催)
- ⑱ JAXAテレビ 通年
JAXAから提供された映像を放映する。(JAXAとの共催)
- ⑲ 最新宇宙情報の提供 通年
人類の宇宙活動, 日本の宇宙活動についての最新情報をJSF (宇宙フォーラム) から提供してもらい, 利用展開をする。(JSFとの共催)
- ⑳ おもちゃ病院 毎月第3日曜日
おもちゃ病院の先生方に, 来館者が持ってきたおもちゃの修理等をしてもらう。(かごしまおもちゃ病院との共催)
- ㉑ 鹿児島大学公開講座
鹿児島大学の教授等による展示物やプラネタリウムを活用した公開講座を行う。

4. 利用者実績

(単位：人)

年 度		H20	H21	H22	H23	H24	H25
入館者	有料	87,126	65,442	73,479	64,496	43,587	92,792
	無料	54,751	44,944	75,786	55,617	50,695	66,889
	計	141,877	110,386	149,265	120,113	94,282	159,681
観覧者	有料	58,105	44,173	51,096	42,282	41,455	58,490
	無料	12,157	8,808	15,308	9,682	13,416	17,607
	計	70,262	52,981	66,404	51,964	54,871	76,097
合 計		212,139	163,367	215,669	172,077	149,153	235,778

※ 「無料」は免除者も含む。

